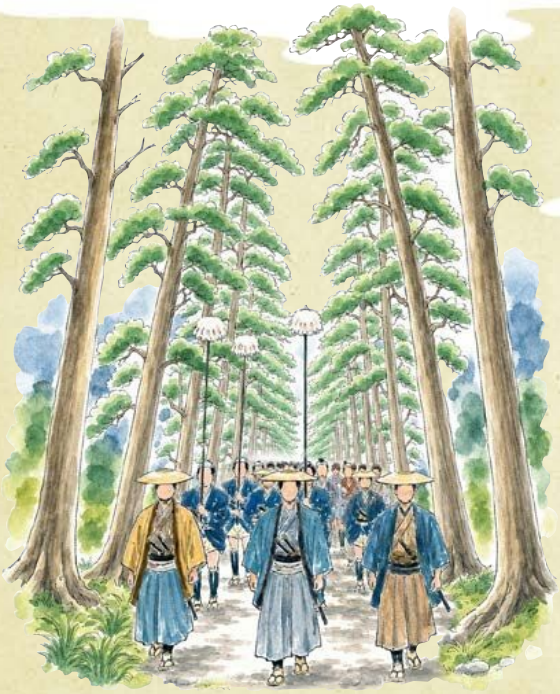
つくば市谷田部
活性化協議会

歩いて発見。谷田部街道めぐり 歴史編

谷田部藩主 細川氏は、茂木町から谷田部へ移転。江戸後期の財政難を救った豪商の存在とは？



参勤交代の利便性を優先し、谷田部へ移転した細川家。





谷田部藩への借金 約1100両を清算!?

※1100両は、現代の価値で約1億円相当



初代藩主 細川興元氏。兄は、細川忠興、義姉はガラシャ。

※家老の三岡道徳が藩祖 興元の姿を描いた絵画「大光霊神御姿絵（八雲神社蔵）」を元に描き起こした。

谷田部藩初代藩主、細川興元

関ヶ原の役後、**細川興元**は徳川氏に仕え、慶長15年（1610）に下野国茂木1万石を与えられた。細川氏は清和源氏の流れをくみ、長岡**藤孝**（細川幽斎）や、その子で熊本54万石の祖となった**忠興**を輩出した家柄である。忠興の弟・**興元**は、朝鮮侵攻や関ヶ原の役で活躍し、家康は**興元**を10万石の大名に取り立てようとしたが、兄**忠興**が「弟は10万石を治める器ではない」と固辞したため、**興元**には10万石の格式のみが与えられた。元和2年（1616）には常陸国谷田部6200石余を加増され、茂木と合わせて1万6000石余の大名となった。

興元は兄が10万石への加増を断ったことを知って激怒し、その後、熊本54万石の本家と数百年にわたり不和になったと伝えられている。

1618年、茂木から谷田部へ

細川氏の下野茂木領は江戸から約140kmと遠く交通も不便だったのに対し、新たに加増された谷田部領は江戸から約60kmで道路も平坦だったことから、参勤交代などの経費や利便性を考慮し、元和4年（1618）に**興元**の子・**興昌**は本城を茂木から谷田部へ移したと考えられる。**興昌**は中世の谷田部城跡ではなく集落に近い低地を選び、約2万2000㎡の敷地に陣屋を設置した。

城下町の形成

二代藩主**興昌**は陣屋の設置とともに城下町の整備にも力を入れ、大手門から江戸へ通じる街道を整備した。また、現在は残っていない不動並木もこの頃に植えられたと考えられる。町内の道路を陣屋付近で直角に曲げるなどの整備も行い、北東の小渡山には鬼門よけとして医王寺を建立した。

栃木県茂木町に残る細川氏の足跡を辿る。



境内に今も残る細川家墓所は県指定史跡。
二宮尊徳の教えに基づき、石碑ではなく杉を墓標として植樹。
子孫の困窮時に役立てる思想で、現代の樹木葬とは本質が異なる。





寺院の入り口にある文明年間の建立とされる総門は県有形文化財に指定されている。

能持院

栃木県茂木町塩田227

能持院は、この地で初めて茂木氏を名乗ったとされる茂木家の祖・八田知基（茂木知基）が1222年に創建した曹洞宗の寺院。もともとは茂木氏の菩提寺であったが、1610年に細川興元が茂木に封ぜられてからは、細川家代々の菩提寺となった。





細川興元公

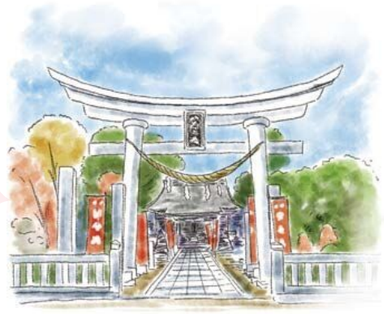




八雲神社

栃木県茂木町茂木1609

茂木藩初代藩主、興元の御霊「大光霊神」を祀った大光神社は後に八雲神社へ合祀され、現在は同神社の配神として祀られている。



八雲神社 参宝殿に展示されている興元が初陣で用いたとされる甲冑。
※劣化防止のため、現在、宝物の常設展示は中止





陣屋の玄関

つくば市谷田部2917-8

谷田部藩の藩庁跡。陣屋趾は、現在の谷田部小学校の敷地内にあった。遺構として御殿玄関が小学校前に移築されている。



細川氏の九曜紋が屋根に見られる。

谷田部藩の財政難を救った豪商、三上治郎兵衛と二宮尊徳の報徳仕法。

谷田部地域は、江戸後期、特に天明から天保年間にかけ大規模な自然災害に見舞われ、谷田部を統治する細川藩の運営や当時の領民生活に大きな打撃をもたらした。これらの窮地を救う手段として、藩医、中村元順（後の勘農衛）が、当時「経世済民を目指し報徳思想を唱え、報徳仕法と呼ばれる農村復興政策を指導する。」二宮尊徳に教えを請い藩財政の立て直しを図る。

三上治郎兵衛（通称、釜屋治郎兵衛）は、谷田部領内において行われた「報徳仕法」と呼ばれる財政・農村再建策に深く関わった御用商人の一人である。

三上治郎兵衛（釜屋治郎兵衛）

谷田部と茂木で行われた仕法では、藩の重い借金や荒地の多さが問題になっていた。その中で、谷田部の「三上治郎兵衛」ら御用商人は、それまで藩に貸していた米や金（千百余両）の貸付を実質的に清算し、さらに仕法のための資金を拠出し、荒地の開発や新しく入ってくる百姓の世話などに協力したことが、仕法の解説記事に記されている。

谷田部領は、九州熊本の細川氏の一族が治めた飛び地領で、天保期には困窮が深刻で、二宮尊徳による仕法は、この困窮を立て直すためのもので、その実務を現場で支えたのが、釜屋治郎兵衛のような地元商人であった。



二宮尊徳の仕法関係資料リストの中に「釜屋治郎兵衛（次郎兵衛）」名義の文書が多数あり、谷田部領の家産や借財の実態を調査した帳簿の差出人になっている。
（国立国会図書館サーチ ndlsearch.ndl.go.jp）

特に、天保7年の家産や借財の取調帳、天保10年以降の「家株再興趣法帳」などに名前が出ており、村や家の再建計画を担った中心的な商人層だったことが分かる。

二宮尊徳（にのみやそんとく）

江戸後期の農政家。報徳仕法を掲げ、各地で治水・開墾を指導。二宮尊徳は小田原藩主、大久保忠真公に手腕を認められ、野州桜町（現・真岡市の一部）の復興の命を受け文政6年（1823）に桜町陣屋に赴任、自ら先頭にたち用水路や堰、橋の改修を行った。尊徳が自ら体験し、編み出した「至誠」「勤労」「分度」「推譲」の四つの教えは、天保の大飢饉にも生かされ多くの人々を救済した。

細川藩の借財高（天保5年1834年）

	借金高	借米高
熊本細川家本家	60,928両	
江戸屋敷	46,836両	676俵
谷田部領内	5,569両	27俵
茂木領内	6,729両	
追加調査分	11,583両	1,935俵
合計	131,645両	2,638俵

出典：谷田部の歴史

報徳思想とは？

経済と道徳の融和を訴え、私利私欲に走るのではなく社会に貢献すれば、いずれ自らに還元されると説く。盥の中の水に例えることも多い。公益社団法人である大日本報徳社と、全国の地域、職域ごとにある報徳社が中心となって普及活動に努めている。



二宮尊徳



羽成観音堂の入口の額縁と堂内に収められている蝋台は、三上治郎兵衛氏による寄贈。





羽成観音堂

つくば市羽成1124

普賢院の側にある羽成観音は、文禄元年（1592）牛久城主由良国繁が、谷田部付近の戦いで滅亡した岡見一族の霊を弔うため建立、観音像は板橋不動尊と同じ弘仁仏とも伝えられている。なお、観音堂の天井画（竜と天女）は広瀬周度16歳の時の作と伝えられている。

近世の谷田部年譜

江戸～明治時代 谷田部の歴史。



飯塚伊賀七

1610年	慶長15年	初代藩主 細川興元、茂木1万石を領す。
1616年	元和2年	興元、大坂夏の陣の功により谷田部6千石余を加増。
1618年	元和4年	二代藩主 興昌、本陣を谷田部に移し 谷田部陣屋を設置する。 台町の薬師内に医王寺を建立。不動並木を植樹、街道を整備する。
1619年	元和5年	初代 興元、歿す。(56歳)
1625年	寛永2年	羽成山普賢院実城寺を再建。(由良氏1591年に建立したもの)
1643年	寛永20年	二代藩主 興昌、歿す。(40歳)
1690年	元禄3年	三代藩主 興隆、歿す。(59歳)
1737年	元文2年	四代藩主 興栄、歿す。(80歳)
1737年	元文2年	五代藩主 興虎、谷田部にて歿す。(26歳)
1762年	宝暦12年	飯塚伊賀七(からくり伊賀)誕生。
1773年	安永2年	谷田部領飢饉。
1784年	天明4年	前年の浅間山大噴火により谷田部領大飢饉。
1786年	天明6年	谷田部領大水。
1787年	天明7年	谷田部領飢饉。
1789年	寛政元年	熱病流行し、名主等が内町八坂神社に病気平癒を祈願。
1794年	寛政6年	六代藩主 興晴、歿す。(59歳) 谷田部藩の藩校「弘道館」開館、茂木領にも設置。
1802年	寛政14年	羽成観音、普賢院が再建される。
1810年	文化7年	飯塚伊賀七、下総布施弁財天の「多宝造鐘楼堂」設計。
1817年	文化14年	下総布施弁財天の「多宝造鐘楼堂」伊賀七の指導のもと建立。
1822年	文政5年	伊賀七、木製大時計が完成し 町民に時を知らせる。
1824年	文政7年	谷田部領大水。
1833年	天保4年	谷田部領大凶作(天保の大飢饉起こる)。
1834年	天保5年	中村元順(勘農衛)、二宮尊徳を訪問し、谷田部藩復興の指導を依頼。
1835年	天保6年	二宮尊徳、谷田部藩に復興仕法書を授け、中村勘農衛、仕法を実施。 二宮仕法の協力者として釜屋治郎兵衛、和泉屋吉左衛門らを褒賞。茂木能持院(曹洞宗)全焼。
1836年	天保7年	釜屋治郎兵衛らが細川氏への借金を義損。飯塚伊賀七(からくり伊賀)歿す(75歳)。
1837年	天保8年	七代藩主 興徳、歿す。(79歳) 細川氏の本家、谷田部藩への借金6万余両を義損。
1838年	天保9年	八代藩主 興建、大坂城詰めとなり二宮仕法を一旦中止する。谷田部領凶作。
1841年	天保12年	谷田部領凶作、二宮仕法を再開。
1843年	天保14年	二宮尊徳 幕臣となり、二宮仕法断絶する。
1846年	弘化3年	谷田部領内大洪水(丙午の大水)、田畑多数水損する。
1856年	安政3年	八代藩主 興建、歿す。(58歳)
1858年	安政5年	中村勘農衛、歿す。(57歳)
1869年	明治2年	九代藩主 興貫、版籍奉還し谷田部藩の知藩事となる。
1871年	明治4年	茂木藩は茂木県となり、谷田部藩は新治県に入る。
1875年	明治8年	谷田部村、茨城県に入る。

細川氏の系図

元常＝藤孝

- 忠興(熊本城城主、妻はガラシャ)
  - 忠利(肥後熊本)
  - 立孝(肥後宇土)
- (常陸谷田部)
  - ①**興元**
  - ②興昌
  - ③興隆
  - ④興栄＝
  - ⑤興虎
  - ⑥興晴
  - ⑦興徳
  - ⑧興建(二宮仕法を実施)
  - ⑨興貫(版籍奉還)

詳細資料

国立国会図書館の「二宮尊徳関係資料リスト」に、谷田部関係の項目として「金屋次郎兵衛(治郎兵衛)の仕法」などがまとめられている。

◎国立国会図書館サーチ
https://ndlsearch.ndl.go.jp/

谷田部の昔と今を知る!

「谷田部街道めぐり」のバックナンバー

第1弾から第6弾までのPDFを掲載しています。



谷田部の歴史を知る!

谷田部郷土資料館



郷土の文化財、遺物、古文書の歴史資料などの展示をしています。谷田部藩細川氏の展示資料、江戸時代の発明家「飯塚伊賀七」が製作した木製和時計の復元品もあります。

つくば市谷田部4774-18
(谷田部交流センター3階)
tel.029-836-0139
◎開館時間 10:00～16:00
◎休館日
毎週月曜日・祝日・
年末年始(12月29日～1月3日)
◎料金 無料

◎編集後記

市井の商人であった釜屋治郎兵衛の資料収集に当たっては、詳細な参考文献が少なく、ご子孫の三上正市氏からお話等を伺いながら纏めました。治郎兵衛さんは、恐らく報徳思想に感銘を受け、自ら進んで債務の棄損(金千百余両、現在の価格で約一億円)を申し出たのではないでしょうか。茂木町への取材の帰路、恐らく暖簾分けと見られる釜○商店、○釜新など、谷田部でも馴染みある釜屋の屋号を称した看板を見つけ、茂木との距離が一気に縮まった日でもありました。

M記



つくば市谷田部活性化協議会 facebookページ
https://www.facebook.com/yatabe.tuskuba

史実や資料のご提供、お待ちしてます!

企画・発行 令和8年10月1日　**編集・制作** つくば市谷田部活性化協議会・(株)キャンバス
協力 曹洞宗能持院・八雲神社・三上正市・つくば市 都市計画部 周辺市街地振興課
出典 谷田部郷土資料館・谷田部の歴史
協賛 (株)都市開発・今川医療福祉法人・日本都市開発(株)・(株)イズミ・(株)若柳建築事務所